

「関係人口」を広げる！「まちづくり会社」の「大きな挑戦」

～「郡中二百年祭記念事業」に学ぶ～

(公財) えひめ地域政策研究センター

所長 山 本 司



1 はじめに

愛媛県伊予市は、愛媛県の中予地方に位置し、瀬戸内海に面する人口約3万7千人の県内市町で9番目に人口の多い市である。この伊予市の中心部に「郡中（ぐんちゅう）」と呼ばれる地域がある。今回のテーマである「郡中」の由来については、1817年（文化14年）、大洲藩10代藩主加藤泰済（やすずみ）が、この地を「御替地（おかえち）」から、「郡中」へ改称し、布達したことによるもので、2017年（平成29年）、この地は、「郡中」の地名を得て満200年を迎えた。

この満200年を機に、市民主導型の手づくり感あふれ

る「郡中二百年祭記念事業」が実施され、私は実行委員会オブザーバーとして参画した。世代を超えた交流イベントや、ふるさとの魅力を見出し、ふるさとの誇りを次代へ伝える事業も展開され、他の地域との関係人口の拡大にも貢献したものと実感している。

本稿では、移住者に人気の町となりつつある伊予市「郡中」で活躍する「まちづくり会社」「まちづくり郡中」の「大きな挑戦」である「郡中二百年祭記念事業」の取り組みを紹介させていただき、中心市街地活性化や関係人口の拡大等に取り組む地域の参考となれば、幸いである。

2 “まちづくり会社”「株式会社まちづくり郡中」の発足と活躍

今回の主役である「まちづくり郡中」を紹介しよう。全国的な中心市街地の衰退・空洞化の傾向が顕著となり、街の活力の低下が大きな問題となっていた中、国は、1998年（平成10年）に、中心市街地活性化法を施行。伊予市では、2000年（平成12年）6月、「伊予市中心市街地活性化基本計画」を策定し、その計画を基に、伊予商工会議所が、2001（平成13年）年3月「伊予市TMO構想」を策定。これを受けて、2001年（平成13年）9月に、第3セクター方式のTMOとして「株式会社まちづくり郡中」が設立された。設立時の資本金は4,000万円（現在4,250万円）、伊予市が2,000万円を出資、商工会議所、民間企業、商業組合のほか、設立時には一般の人からも出資（一口5万円）を募っている。21世紀とともにスタートした「株式会社まちづくり郡中」は、定款で、会社の利潤は株主に配当せず、再投資を行うNPO的な運営方針としており、役員15名は全員無報酬であり、多くの市民ボランティアと協働する、市民参加による“まちづくり会社”を目指して活動している。その事業内容は18項目に及ぶ。事業を大き



愛媛県伊予市の場所



郡中の「町家」（伊予市米湊827-4）

く分類すると、基本的方向として、①「中心市街地運営の拠点となり、中心市街地をプロモートする事業」、②「中心市街地のハードとソフトの充実」、③「中心市街地での暮らしの支援システム」に分けることができる。

主な事業としては、JR「伊予市駅」と伊予鉄道「郡中港駅」前におけるまちの交流拠点「町家」（まちや）の運営がある。2004年（平成16年）4月29日オープンした「町家」は、公設民営方式で、伊予市が「町家」本体の整備を行い、運営は「株式会社まちづくり郡中」が担っており、手づくり交流市場「町家」と看板を掲げ、テナント10店と直営店・特産品販売所が入っている。

同社は、“まちづくり会社”として、地域で様々な活動を展開し、元気な地域づくりに貢献しており、移住定住相談にも力を入れており、東京や大阪での移住フェアへの出展や移住体験ツアーなど、スタッフの温かみのある対応が評判で、この5年間で10名以上の移住者を受け入れるなど、着実な成果が出ている。「株式会社まちづくり郡中」は、伊予市の中心市街地活性化に欠かせない存在となっており、その重要性は増している。

3 郡中二百年祭への思いを繋ぐ

2017年（平成29年）上半期に実施された「郡中二百年祭」について、関係者が、どんな思いで取組み、実施してきたか、記録し、後世へつなぐことは重要であると考え、聞き取り調査を行ったので、郡中200年祭実行委員会の皆さんへのインタビュー内容を中心に紹介したい。



郡中二百年祭記念誌 郡中まち物語
（A4版、カラー印刷、56頁）

【はじめに】

「ECPR」はじめに、郡中二百年祭に取り組まれた趣旨について、お聞かせください。

「郡中」郡中二百年祭は、郡中への関心と誇りや愛着を深め、それが、地域の明るい未来を切り開く力になってくれる事を目指したものです。郡中二百年祭は、多くの有能な人達の熱意により成果を得たという特色があり、成功の要因はマンパワーにあったと思われます。行政の仕組み、経済、人口など、小さな町の将来は厳しさを増してくるかもしれません。こんな時代にこそ、そこに暮らす人たちの、地域への誇りや愛着で、未来を切り開いていく事が求められているようにも思います。同時にこれをサポートする外部の人たちの存在も大切かと思われます。

「ECPR」郡中二百年祭に、第3セクターの「まちづくり郡中」が大活躍されましたね。

「郡中」2001年（平成13年）に設立された「株式会社まちづくり郡中」では、まちなかの空洞化が進む中、このような状況に対応すべく、2010（平成22）年2月17日、住民等呼びかけて“まちづくり団体”「郡中まち元気推進協議会」を設立します。まずは、住民が主体になって、できることから取り組むことになりました。商店などのデーターを掲載した「人にやさしい郡中まちなかマップ」の発行、郡中まちなかへの移住の促進、まちづくり施設「郡中まち元気サロン・来良夢（こらむ）」の開設、郡中まちなかでの起業の創出などのまちづくり事業を積極的に実施し、成果を得ています。



「ECPR」郡中二百年祭を開催しようという発想は、どのように出てきたのでしょうか。

「郡中」「郡中まち元気推進協議会」が様々な活動を行っている中で、2017（平成29）年は郡中の地名が誕生して200周年の節目の年に当たり、これを記念して郡中二百年祭を開催してはという提案が生まれました。郡中二百年祭の開催を通して、できるだけ多くの方に郡中のまちの歩みや現状を知っていただき、それが、地域への誇りや新たな地域愛の誕生などにつながってくれるかもしれない、そんな期待のもとに、下準備が

始まりました。

〔ECPR〕郡中二百年祭の構想は、関係者の皆さんの理解はすぐに得られましたか。

〔郡中〕2015（平成27）年4月頃、郡中二百年祭開催の構想を話しますと、大方の方から、「郡中二百年祭って、それって何？」といった返事が返ってきました。もっともな話で、これまで郡中のまちの歩みといえば、江戸時代前期に宮内兄弟により灘町が拓かれた事の印象が強く、その後のまちづくりの歩みについてはあまり知られていません。

〔ECPR〕郡中二百年祭の実現へ向け、具体的な動きはあったのでしょうか。

〔郡中〕2015（平成27）年5月、郡中まち元気推進協議会に、アドバイザーをお迎えし、第1回郡中二百年祭下準備会を開催し、郡中のまちの歩みの概要を学び合いながら、以後、9月25日までに5回開催されました。さまざまな分野にわたり議論され、二百年祭開催の目的は、「①郡中のまちづくりの歩みを学びあう。②庶民が築いてきたまちの歴史に誇りを持ち、郡中の名を広める。③元気なまち・暮らしやすいまちをみんなで創る。」の三点です。特に、開催に当たっては、「住民主体で進めること、市民手づくりの事業、市民多数の参加型・体験型事業であること、郡中二百年祭を一過性のイベントにとらえず、まちづくりへの新たなスタートとすること」、などの基本的な方向性が提案されています。

【郡中200年祭実行委員会の設立】

〔ECPR〕実行委員会を設置されたのですね。

〔郡中〕「株式会社まちづくり郡中」の呼びかけにより、2015（平成27）年10月20日に、郡中200年祭実行委員会が設立され、第1回郡中200年祭実行委員会を開催しています。実行委員には市内外の企業、各種団体、教育関係、市民など40名の方々に就任していただきました。また、アドバイザーとして、愛媛大学社会連携推進機構教授の前田眞氏、オブザーバーとして、株式会社えひめリビング新聞社取締役・リビングまつやま編集長小原明美氏、株式会社バツフォー取締役稲田里香氏をお迎えし、事務局は、「株式会社まちづくり郡中」の社員4名とし、合計47名でスタート

しました。2016（平成28）年10月6日からは、オブザーバーに、えひめ地域政策研究センター専務理事・所長の山本司氏に加わっていただきました。

また、実行委員会は、4つの分科会を設けました。A部会「子供たちが町の歩みを学びあう企画と実行」、B部会「まちづくりの歩みのシンボルゾーン『港と五色浜』に親しむ企画と実行」、C部会「雇用や暮らしを支える産業を学びあい育てる企画と実行」、D部会「お宝発見、再発見、その他の企画と実行」の4部会に分けられました。

〔ECPR〕実行委員会は、ワークショップ方式で実施されましたね。

〔郡中〕2017（平成29）年9月25日までに、計9回の実行委員会が開催されました。実行委員会の際には、それぞれの部会で、ワークショップ方式により熱心な議論を重ねるとともに、全体での座談会などが行われています。その間、それぞれの部会で作業部会の開催や実地検証等も行われ、実行委員会と事務局により実施計画が作成されました。

【郡中二百年祭の開催】

〔ECPR〕いよいよ郡中二百年祭の本番ですね。

〔郡中〕2017（平成29）年4月2日、彩浜館で開催された郡中二百年祭記念式典は、第29代五色姫の皆さんの司会で進められました。

はじめに、郡中の明治期に地域の発展に尽くされた豊川渉氏、宮内治三郎氏、藤谷豊城氏、槇江山氏に郡中名誉町民賞を贈呈し、ご子孫の方々に受領していただき、地域の産業振興に尽くされたヤマキ株式会社代表取締役社長城戸善浩氏、マルトモ株式会社代表取締役社長明関和雄氏、株式会社オカベ代表取締役会長岡部悦雄氏に感謝状を贈呈させていただきました。明治期の先人の功績と、大正期に創業して以来今日まで、伊予市の経済を支え続ける食品企業3社の功績を改めて学び合い、参加者が地域の誇りを共有できた貴重な機会となりました。

記念式典では、えひめ地域政策研究センター専務理事・所長の山本司氏による「地域づくりは人づくり」の講演と、郡中小学校生梶野遥さん、福井愛叶さん、港南中学校生福井丈一君、伊予農業高等学校生松下輝

君による意見発表が行われ、郡中二百年祭を象徴する意義深い記念式典になったと思います。



記念式典講演会（著者）



郡中200年祭フォーラムパネリスト

〔ECPR〕二百年祭では、子ども達も活躍されたのですね。

〔郡中〕2017（平成29）年6月10日に、伊予市ふれあい土曜夜市で開催されました、「郡中200年 history」は、郡中小学校生、港南中学校生、伊予農業高等学校生の皆さんが作成したクイズに、参加者が回答するというクイズラリーで、企画・準備・実施にいたるまで子供さんたちが主体となっておこなわれました。子供さんたちによるこの事業の成功は、郡中の将来に向けて、明るい希望の灯になりました。

〔ECPR〕二百年祭では、体験型事業や歴史講演会など、様々なイベントが実施されましたね。

〔郡中〕体験型の企画として、計3回開催された「食の企業・商店見学」、計2回開催された「郡中まちなみめぐりツアー・伊予港周回の小さな旅とまちなみめぐりツアー」は、郡中の新たな魅力が深まったと好評でした。郡中二百年祭記念講演を、まちの縁側「ミュゼ灘屋」（宮内小三郎邸）で開催し、愛媛大学名誉教授内田九州男氏と伊予高等学校教諭柚山俊夫氏に「宮内家の歴史に係る事柄」を、伊予市歴史文化の会副会長作道茂

氏には、「郡中に生まれた文化、郡中十錦と江山焼について」、学ぶ機会ができ、郡中の歴史の深さを感じることができました。

また、郡中二百年祭かんバッジの作成と郡中小学校へのプレゼント、郡中二百年祭記念誌郡中まち物語の発刊とプレゼント、郡中二百年祭フォトコンテスト、郡中のお宝を教えて大募集！、郡中二百年祭記念動画の配信など多彩な事業が開催されました。



郡中フォトコンテスト



記念講演会を開催したミュゼ灘屋（宮内小三郎邸）

〔ECPR〕二百年祭も、半年間の開催期間を経て、9月にフィナーレを迎えましたね。

〔郡中〕2017（平成29）年9月9日には、手づくり交流市場町家の中庭で、郡中二百年祭のフィナーレをかざる「郡中まちなみ映画会」が開催され、星空を見ながら、映画「先生と迷い猫」などを観覧、郡中「町家」の夜の魅力も体験する機会となりました。

郡中二百年祭記念事業全般をとおして、民力で築いてきた郡中のまちの魅力を学び合い、体験し、素晴らしい成果を得て終了いたしました。

〔ECPR〕二百年祭の事業経費は、どれぐらいの規模だったのでしょうか。

〔郡中〕準備段階からの3年間で約615万円でした。「株式会社まちづくり郡中」で負担しました。

〔ECPR〕二百年祭を総轄すると、いかがでしょうか。



町家での映画会



郡中の魅力をスマホ動画で紹介



郡中の夜市

〔郡中〕 各種団体等による協賛事業は7事業、郡中200年祭実行委員会と「株式会社まちづくり郡中」の主催事業は28事業が開催されています。二百年祭は、下準備会から起算すると2年4ヶ月、郡中200年祭実行委員会の設立から起算しますと約2年を要した事業でした。行政機関等が開催する各種の記念祭に比較すると、ささやかな予算規模で行われた事業でしたが、郡中二百年祭を支えたのはマンパワーであったと思われます。アドバイザー、オブザーバーに就任していただいた方々をはじめ関係の皆さんの高い能力と熱意が印象に残ります。

〔ECPR〕 二百年祭は、市民参加型イベントが多かったと伺いましたが、いかがですか。

〔郡中〕 市民手づくり事業の良さも発揮しています。例えば、郡中200年タペストリーを制作された、平均年齢約70才の郡中いっぷく亭手作り教室他11名の皆さんは、タペストリーの制作を通して初めて郡中のまちの歴史にふれ、4ヶ月をかけて苦労の大作を完成させています。制作にあたられた方にとって、郡中二百タペストリーと製作者の皆さん年祭は、生涯思い出に残る行事になりました。



タペストリーと製作者の皆さん

【郡中二百年祭をつなぐ】

〔ECPR〕 二百年祭に参加された市民の反応はいかがでしたか。

〔郡中〕 多くの方々のご協力とご参加を得て終了した郡中二百年祭ですが、この行事をととして、郡中のまちのあゆみの概要をはじめて知った方々もおられ、郡中まちなかへの関心度も高まったように思います。主催者サイドとして参加された方々に感想をおうかがいしましたところ、「郡中のことを知ることができてよかった。新たにいろいろな人と知り合いになれた。」、「民間が中心になって、実施したことは意義があった。」、「若い人の参加や関心が低かった。」などの感想が出ました。

〔ECPR〕 二百年祭を今後どう生かすか、市民のご意見はいかがでしたか。

〔郡中〕 「郡中二百年祭の成果を今後活かすには」との問いに対しては、「郡中のまちの歩みを多くの人に伝えよう。」、「特に若い人たちに郡中のまちや、まちの歴史に関心を持ってもらおう。」、「郡中二百年祭で知り合えた人達のネットワークを維持しよう。」、「郡中二百年祭で開催した事業で継続可能な事業は今後も実施しよう。」などのご意見がありました。これらのご意見を着実に実現していくことが今後の大きな課題になります。

〔ECPR〕 二百年祭の成果を、地域のために、どのように活かしていきたいと考えていますか。

〔郡中〕 例えば、まちの歩みを伝えるにも様々な方法が考えられますが、一つには郡中の魅力を伝える、語り部があります。実行委員全員の方に郡中の語り部を担っていただく必要がありますが、あわせて、新たに郡中の語り部を募ることも考えられます。また、若い人たちの

参加についても、教育関係団体や市内小学校、中学校、高等学校や大学校との連携なども再度模索することにも必要になるかもしれません。郡中二百年祭の開催をとおして生まれた人的なネットワークを維持・拡充しながら、これからも、「郡中を学び合う、広める、創る！」を目指して活動を継続したいと思っています。「民力で築いてきたという特異な歴史をもつまち、郡中の魅力」を様々な事業の実施をとおして発信し続け、それが、郡中まちなかの再活性化に向けての活力の醸成と、町のイメージの向上につながるよう、皆でねばり強く取組んでいけたらと考えています。郡中二百年祭のテーマの設定や手法は、斬新さはないかも知れませんが、各地の参考になれば幸いです。

4 「地域づくりは人づくり」

～郡中二百年祭記念式典・講演会より～

私は、郡中二百年祭実行委員会のオブザーバーとして、実行委員会での議論やイベントにも関わらせていただき、今回の「郡中二百年祭」への取組みは、住民主体を体現した手作り感あふれる住民参加型のイベントであり、これからの郡中の関係人口を拡大する契機であると実感しています。特に、2017(平成29)年4月2日開催された「郡中二百年祭記念式典」の講演会では、講師の大役を頂き、郡中200年の先人に思いをはせつつ、私の信念である「地域づくりは人づくり」をテーマに、講演させていただいた。郡中二百年祭での講演が、これからの地域の宝さがし、地域づくり、人づくりを考える上で、参考になれば幸いと考え、講演要旨を掲載します。

☆講演「地域づくりは人づくり」

(えひめ地域政策研究センター所長山本司)

【ふるさとの宝物】

あなたにとって、ふるさとの大切な「宝物」は、山でしょうか、川でしょうか、海でしょうか、町並みでしょうか。人との出会いでしょうか。大切にしている「ふるさとの風景」や「大切な思い出」は、かけがえのない宝物だと思います。今日は、郡中二百年祭の開幕ですが、三百年祭へ向けたスタートでもあると思います。皆さんにとって、他の地域に、次の世代に、誇れる「郡中の宝」は何でしょうか。100年先に、伝えたい「郡中

の宝」は、何でしょうか。

私にとって忘れられない「風景」、「心の宝」として、いるものが、3つあります。

一つ目の「宝物」は、「音の風景」です。私が、3、4歳ぐらいの頃だったでしょうか、玄関で、「ちりん、ちりん」という音が聞こえてきます。祖母から、「お遍路さんにお米もって行って」と言われ、お米を軒先に立つお遍路さんに届け、手を合わせるのが私の日課になっていました。そのお遍路さんの鈴の音と白装束は目に焼き付いています。今思うと、お大師さんへの信仰心の篤い祖母が、お遍路さんへのお接待を通じて、人への優しさを、教えてくれていたのだと思います。こうした、地域では当たり前と思うお遍路さんへの「お接待」ではありますが、四国独特のものといわれます。人をもてなす「お接待の文化」は、しっかりと次代へ残したい「宝」であると思います。「人の輪」「人との繋がり」を大切にする地域であることは、何よりも、大事な「宝」であり、「地域の誇り」であると思っています。

二つ目の「宝物」は、「味の風景」です。日本の棚田百選にも選ばれている内子町五十崎の「泉谷の棚田」では、地域の代表の上岡さんは、棚田オーナーを募集し、都市部との交流の中で、他地域の理解を深め、棚田の維持を図っておられます。私も当時小学1年生の娘と棚田オーナーとして、田植え、草刈り、稲刈りなどに参加しました。厳しい自然環境、作業環境から生み出される棚田米の美味しいおにぎりの味が忘れられません。

子供が生まれるたびに一枚一枚、棚田を拓いてきた先祖から受け継いだ棚田を、地域の高齢化が進む中でも、何とか維持し、次の世代へ伝えていきたいとの、上岡さんの言葉は心に染み入りました。次の世代に大事な地域を伝えるためには、地域のために、今、できること、今しかできないことを、我々は、取り組むことが大切であると思っています。

三つ目の宝物は、「自然と人の風景」です。愛媛県には、西日本最高峰の山、標高1982mの「石鎚山」があります。私は、平成24年度から3年間、県の自然保護課長として、石鎚山の山頂付近に環境に配慮したトイレを作るという使命がありました。

石鎚山頂付近には、当時は、昔ながらのトイレしかなく、観光利用や、環境面でも、大きな問題となっていま



石鎚山トイレ休憩所（標高1892m）



棚田百選の一つ「泉谷の棚田」（内子町）

した。しかし、山頂付近には十分な用地もない、資機材を運搬する道路もない、冬場は凍結して工事ができないなど、すべての材料、機材をヘリコプターで運搬するという、いわば「ないないづくし」厳しい条件下で工事となりました。国と石鎚神社のご協力も頂き、建設用地（国有地）を確保。完成後のトイレ維持管理を担う「石鎚山クリーンアップ協議会」も設け、検討を進めました。真剣に様々な意見を本音で戦わせる中で、みんなで維持管理する「日本一美しい山のトイレ」にしようとのスローガンが生まれました。

変わりやすい山の天候に翻弄される厳しい工事でしたが、関係者も、最後まで絶対に諦めないとの思いで工事を進め、平成26年11月20日、二の鎖下の1820mの地に、環境にやさしい土壌処理方式の男女のトイレと避難小屋機能をもった「石鎚山トイレ休憩所」がオープンしました。開所式には、山頂から穏やかな光が差し込み、

山の神様が喜んでくれているとの思いを感じました。久万高原町の杉やヒノキをふんだんに使ったトイレ休憩所は、見た目も美しく、清潔で、多くの方の力で、美しく維持されています。

「地域の宝」を磨きあげるには、様々な条件がありますが、まず、地域の魅力を見つめ、それを磨き上げるという強い意志、何より、みんなの思い、みんなの合意が大事であると思います。

【郡中の宝さがし】

私に、大切にしたい「宝」が一つ増えました。郡中の町並みであり、その歴史であり、郡中に関わる皆さんの熱い思いです。郡中二百年祭は、過去に根差し、今を磨き、未来に繋ぎ、大切な事業だと思っています。そして、100年後の郡中三百年祭のスタートだとの思いを強くしています。「地域の宝」、「郡中の宝」を、100年先に伝えるために、私たちは何をすればよいでしょうか。

郡中のまちづくりの主役は、郡中ゆかりの皆さんです。皆様に「郡中の宝」について、考えて頂きたいと思います。「地域の宝」を探するとき、是非、心がけて頂きたいことがあります。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感を使っていただきたいと思います。できれば、第6感も働かせてみてください。きっと違う魅力が発見できるものと思います。老若男女問わず、洋の東西を問わず、「宝さがし」はワクワクとするものです。是非、地域に出て、地域を見つめ、地域の「宝物」を見出し、その宝物とのいいご縁が始まることを願っています。ワクワク、ドキドキがキーワードです。

さらに、「地域の宝物」、「郡中の宝物」を100年先に残すため、何をしたらよいか」を考えていただきたい。100年後には、本日ご出席のほとんどの方が、違う世界へ旅立っていると思います。しかし、今生きる我々が知恵を出し合い、様々な方法で、今の思いを伝えることはできると思います。地域の未来のために、子供たちの未来のために、「地域の宝」、「地域の魅力」を見出し、磨きだし、次の世代に着実に伝えていくことは、我々にとって、大切な使命だと思っています。

【「地域づくりは人づくり」、「人づくりは未来づくり」】

「地域づくりは人づくり」と申しますが、「人づくりは未来づくり」「人づくりは心おこし」であり、「心おこしは、人の心に火をともしこと」だと思っています。「ふるさ

と」学習は、正に、チャンスだと思います。小中学校の頃に体験した「ふるさと」の魅力、誇れる「ふるさと」の宝物との思い出は、「一生の宝物」だと思います。人が訪れたいと思う町の魅力とは、そこに住んでいる人の魅力が大きく影響すると思います。地域の未来のために、郡中の未来のために、みんなで、知恵を出し合い、声を出し合い、力を出し合って、「地域の宝」、「地域の魅力」を見出し、磨きだし、次の世代に着実に伝えていくことが、大切だと思っています。

何よりも、地域の人々の思いの結集である「地域の誇り」を積み重ねることが、次の世代に、地域が確実に引き継がれていくものだと思います。家に帰ってからで結構ですので、地域の魅力、地域力を高めるために、私ができること、郡中の魅力アップのために、私の「地域づくり行動宣言」として、書いて、張り出して頂ければ、幸いです。そして、行動の一步を踏み出しましょう。

「山は苦勞して登るほど、景色は美しく見える」と申します。「地域づくり」は「人づくり」であり、根気のいることだと思いますが、喜びも大きいものです。郡中二百年祭を大樹に育てられるよう、共に、地域に未来のために信念を持って、どんな困難に出会っても、寒風に凍えぬ「熱き心」、強風に折れぬ「強き心」、薫風に微笑む「優しき心」を持って挑戦してまいりましょう。

最後に、郡中まちづくりに関わる全ての皆さんに感謝し今後益々のご尽力にエールを送りますとともに、郡中の限りのない発展を祈ります。

5 地域の関係人口を広げるために

人口減少社会の中で、地域や地域の人々と多様に関われる「関係人口」が注目されている。

郡中は、「定住人口」となる移住者にも人気の地域になりつつあるが、郡中二百年祭により、世代を超えて地域の住民の皆さんの歴史ある郡中への誇りの醸成が図られるとともに、様々な交流イベントを通じて、外部からの「交流人口」が増加し、さらに名誉町民など郡中出身者との関わりの深化やファンづくりにも繋がるなど、「関係人口」拡大が図られていると感じている。

「郡中二百年祭」記念事業では、ワークショップ形式の実行委員会を重ねるたびに、事業が形づくられるとともに、郡中二百年祭への仲間意識と当事者意識の高まって

くることを肌で感じた。特に、記念事業では、郡中の歴史に根差し、今の郡中の魅力を体感する事業も多く、地域住民の参加とともに、外部との交流や新たな関係の構築を意識した取り組みが行われている。

私も、200年祭実行委員会のオブザーバーとして参画し、郡中を思う多くの皆様と議論し、町並みを歩き、美味しいものを頂き、すっかり郡中のファンとなり、郡中を大事に思う「関係人口」の一人であると自覚している。人口減少社会の中での地域活性化を考える上で、地域と関わる人々の関係性を深め、地域との「関係人口」を拡大することは、これからの地域づくりの可能性を広げるものと思う。よき縁を「関係人口」と繋ぐべく、地域間の知恵比べの時代を迎えているのである。

6 “誇れるまちづくり”への提言

郡中200年を思う時、「あの日見つけた夢の種、努力の雨を降らせると、感動の花が咲く」という大好きな言葉を思い出す。「郡中二百年祭」は、「郡中」を守り育ててきた先人の思いと誇りに応え、未来へと思いをつなぐ小さな「まちづくり会社」の「大きな挑戦」でした。郡中の皆さんの時代を超えて、「まち」を元気にしたいとの思い「夢の種」が大きく芽吹き、多くの出会いと感動を生み出しました。

「郡中二百年祭」では、記念事業を住民参加型で創り、その事業を多くの主体が協働して実施する中で、住民の皆さんが、そして子供たちが、郡中の歴史と先人の営みを学び、「地域の宝」として、「郡中」、「ふるさと」を誇りに思う人が増えたことは大きな成果だと思う。

これからの「郡中」のまちづくりにおいては、みんなで創りあげた「郡中二百年祭」の成果が一過性のものにならないように知恵を絞り、繋がった人々、郡中を愛する「郡中の関係人口」との絆を一層深めるとともに、次代を担う子供たちに、「郡中の歴史と魅力」を、「ふるさとの宝物」、「ふるさとの誇り」として、永く語り継いでいく仕組みを是非作って欲しいと思う。

そして、100年先の「郡中三百年祭」への思いを馳せ、一年一年、一人一人が主役として、“誇れるまちづくり”を展開し、輝ける「郡中」の新たな歴史が着実に積み上げられることを期待します。

本稿で紹介した“地域に根差し”、“地域の未来を思い”、

“地域を愛する”「郡中200年祭実行委員会」の取組みが、「地域の宝づくり」、「誇れるまちづくり」に挑戦する皆さんにとって、また、地域の「関係人口」の拡大や地域活性化に挑戦されている皆さんにとって、ご参考になれば、幸いである。

この度の調査、取材に御協力頂いた、伊予市、伊予商

工会議所、株式会社まちづくり郡中、郡中200年祭実行委員会、郡中の皆さんに、感謝申し上げます。

郡中二百年祭記念事業一覧

番号	記念事業	開催時期	主催
1	第1回商店街まちあるき	28.8.5	伊予市商業協同組合
2	第2回商店街まちあるき	28.9.9	伊予市商業協同組合
3	お店がお宝展	28.10.20~22	伊予市商業協同組合
4	郡中レトロ	28.10.22	まちづくり郡中
5	新春 郡中お宝鑑定会	29.1.7	200年祭実行委員会
6	仲田 蓼 村展&引札展	29.2.3~2.4	200年祭実行委員会
7	郡中小学校へかんバッジ1000個贈呈	29.2.24	200年祭実行委員会
8	郡中ひななごり	29.3.3~4.3	郡中いっぷく亭他
9	三世代交流 健康ウォークラリー大会	29.3.5	郡中校区愛護班協議会
10	食の企業・商店見学とまち歩きツアー	29.3.15	200年祭実行委員会
11	郡中謎?とき まちあるき	29.3.18	200年祭実行委員会
12	五色姫復活祭	29.3.26	伊予市商業協同組合
13	郡中二百年祭ロビー展	29.4.1~4.2	200年祭実行委員会
14	郡中二百年祭ロビー展お茶席	29.4.1~4.2	200年祭実行委員会
15	郡中二百年祭記念式典・名誉町民賞贈呈・感謝状贈呈・講演会・意見発表会	29.4.2	200年祭実行委員会
16	郡中二百年祭記念誌「郡中まち物語」贈呈	29.4.3~4.7	200年祭実行委員会
17	郡中二百年祭記念誌「郡中まち物語」贈呈	29.4.8~4.9	200年祭実行委員会
18	郡中二百年祭記念誌、市内小中校へ贈呈	29.4月上旬	200年祭実行委員会
19	食の企業・商店見学とまち歩きツアー	29.4.19	200年祭実行委員会
20	郡中まちめぐりツアー「伊予港周回」	29.4.22	200年祭実行委員会
21	記念講演「灘町の興りと宮内邸」	29.4.30	200年祭実行委員会
22	郡中のお宝 発表	29.5月初旬	200年祭実行委員会
23	記念講演「郡中に生まれた文化」	29.5.7	200年祭実行委員会
24	郡中二百年祭記念誌「郡中まち物語」贈呈	29.5.8	200年祭実行委員会
25	郡中まちめぐりツアー「伊予港周回」	29.5.13	200年祭実行委員会
26	食の企業・商店見学とまち歩きツアー	29.5.17	200年祭実行委員会
27	記念講演「江戸時代の郡中商人」	29.5.27	200年祭実行委員会
28	郡中フォトコンテスト入賞作品展示	29.6.6~7.14	伊予金融協会
29	郡中十錦、江山焼、仲田蓼村日記の展示	29.6.1~	伊予市商業協同組合
30	郡中二百年祭記念誌「郡中まち物語」贈呈	29.6.3、6.10、6.17	200年祭実行委員会
31	発見! 郡中200年history	29.6.10	200年祭実行委員会
32	ふれあい土曜市(祝いもちプレゼント)	29.6.10	伊予市ふれあい土曜夜市会
33	郡中を学び合う会	29.6.21	200年祭実行委員会
34	動画が見える「しおり」の作成	29.7月上旬	まちづくり郡中
35	郡中二百年祭フォーラム	29.7.12	200年祭実行委員会
36	郡中を訪ねるスマホで動画の配信	29.7.14	200年祭実行委員会
37	郡中二百年タペストリーの展示	29.7.28~8.10	200年祭実行委員会
38	郡中二百年祭展	29.8.16~8.20	200年祭実行委員会
39	郡中まちなか映画会	29.9.9	200年祭実行委員会

<参考文献>

伊予市誌（伊予市編さん）
 伊予市中心市街地活性化基本計画「いよいよ郡中物語がはじまる」（伊予市）
 伊予市中心市街地活性化マスタープラン（商業編）（伊予商工会議所）
 郡中二百年祭記念誌「郡中まち物語」（郡中200年祭実行委員会）
 郡中二百年祭記念事業報告書（郡中200年祭実行委員会）
 株式会社まちづくり郡中「ホームページ」

Profile 山本 司（やまもと つかさ）

公益財団法人 えひめ地域政策研究センター 専務理事・所長
 1980年 愛媛県庁入庁
 2012年 愛媛県自然保護課長
 2015年 愛媛県教育委員会教育総務課長
 2016年 （公財）えひめ地域政策研究センター 専務理事・所長
 2016年 えひめ地域移住相談員
 2018年 （公財）えひめ地域政策研究センター 客員研究員（4月～）